

在庫管理について

地下タンク在庫と漏えい検査管点検(記入例)

4月

タンク		1	油種	灯油		タンク容量	10KL		実施責任者	消防 太郎	
日	曜日	検査管の点検	始業前の在庫数量	ローリーからの受入数量	消費量	計算在庫量	終業時の実在庫量	本日の増減	消費量累計	増減量の累計	累計増減率
		1週間に1回以上	A	B	C	D	E	F	G	H	I
						A + B - C		E - D	前日のG + C	前日のH + F	(H ÷ G) %
1	木		4,550		1,100	3,450	3,440	-10	1,100	-10	-0.909
2	金		3,440		1,000	2,440	2,442	2	2,100	-8	-0.381
3	土		2,442		1,250	1,192	1,187	-5	3,350	-13	-0.388
4	日		1,187	8,000	1,110	8,077	8,075	-2	4,460	-15	-0.336
5	月		8,075		1,200	6,875	6,877	2	5,660	-13	-0.230
6	火		6,877		1,100	5,777	5,775	-2	6,760	-15	-0.222
7	水		5,777		1,000	4,777	4,774	-3	7,760	-18	-0.232

- A 始業前の実在庫量
- B ローリーから当該タンクへ荷卸しされた量
- C 当該タンクに接続されている消費設備の消費量
- D 計算在庫量 = A + B - C
- E 終業時の実在庫量
- F 本日の増減 = E - D
- G 消費量累計=前日のG + C
- H 増減量の累計 = 前日のH + F
- I 累計増減率 (%) = H ÷ G × 100

- ・ 在庫の累計増減率の管理は週1回以上、必ず行ってください。
- ・ 在庫の累計増減率の異常を判断する基準を事前に決めておいて下さい。
[参考] 米国環境保護庁(EPA)の規定では、1ヶ月間の在庫変動量が【1ヶ月の累計販売量の1% + 130ガロン(約500)】を超えないか否かが基準となっています。こうした事例を参考にしてください。
- ・ 上記の在庫管理や週1回以上実施する漏えい検査管の点検等から、異常の可能性が高いと判断される場合には、直ちに正常化するための対応をとってください。このためにも毎日の在庫管理と週1回以上の累計増減率の管理は徹底して実施しましょう。
複数のタンクが接続されている場合は、それを1つのタンクとみなして記入してください。

漏えい検査管点検について

(二重殻タンクの場合は漏えい検査管がないため、この点検は不要です)

週1回、特定の曜日を定めて点検しましょう。(特定の曜日を定めたら当該日に赤印などを付けておくと便利です。)

「検査管の点検」欄の記入方法は下記のとおり行ってください。

正常 × 異常 異常の対応(連絡等をとったとき) 修理済

在庫増減について

差異(E - D本日の増減)は多くの場合下記の事項が原因で発生します。日常から各タンクの増減のくせ等をよく観察し、通常時と比較し、異常と判断したらすみやかに検査管等の点検・調査を実施しましょう。

地下タンクまたは配管からの漏油(盗難も考えられます。)

地下タンク内の油温の変化(特にローリー荷卸し直後)

油面計の精度または整備不良、検尺棒の測定誤差

地下タンクの製造上または設置上の不具合

通気管からの気化等による減耗

地下水、雨水等の混入による増加